

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 畜産学部	3
2. 畜産学研究科	6

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。



## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
畜産学部	【4】	特筆すべき高い質にある	【3】	高い質にある
畜産学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある



## 1. 畜産学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 4 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 5 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

**〔判定〕 特筆すべき高い質にある**

### 〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

北海道大学と連携し、欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）の認証取得を目指した教育体制及び教育環境の整備を進めた結果、欧州獣医学教育認証の取得を実現している。また、帯広市との連携事業において、学生が主体となって 47 件の事業を実施するとともに、産業社会の要請する人材の育成に向け、地元企業のニーズを踏まえた共同研究 21 件に学部学生を参画させ、実際の製品開発等に携わっている。

### 〔優れた点〕

- 獣医系 4 大学（帯広畜産大学、北海道大学、山口大学、鹿児島大学）が一致協力して、クリニカルローテーション時間数の大幅増（4 週→12 週）等の教育カリキュラム改善、QA（Quality Assurance）委員会の設置等の教育の質保証体制の整備、相互利用可能な e ラーニング自学自習教材の教育コンテンツの充実及びその相互提供等により、日本の獣医学教育の質の向上に貢献し、アジアで初めてとなる「欧州獣医学教育認証の取得」を実現した。

### 〔特色ある点〕

- 帯広市との連携事業「若者が牽引するしごとづくり・まちづくりプラン推進事業」において、学生が主体となり、「文化・スポーツを通じた市民参加型の事業」、「おびひろ動物園をより魅力的にする事業」及び「まちなか活性化事業」等をこれまで 47 件実施するとともに、産業社会の要請する人材の育成に向け、地元企業のニーズを踏まえた共同研究 21 件に学部学生を参画させ、実際の製品開発等に携わった。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 高い質にある

### 〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

獣医学課程の主な産業別就職先は、動物病院等の獣医臨床に関わる技術サービス（31%）、公務員獣医師等（24%）の獣医師資格を生かした進路選択がなされており、教育目標に沿った人材輩出がなされている。

### 〔優れた点〕

- 獣医学課程の主な産業別就職先は、動物病院等の獣医臨床に関わる技術サービス（31%）、公務員獣医師等（24%）の獣医師資格を生かした進路選択がなされており、帯広畜産大学の教育目標に沿った人材輩出がなされている。

## 2. 畜産学研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 7 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 8 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 国際協力機構（JICA）との連携事業として実施する、帯広－JICA 協力隊連携事業を活用して獣医・畜産分野における国際協力経験機会を通じたグローバル人材を育成するため、2年間の長期ボランティアに3名の大学院生を派遣した。長期履修制度の活用等により、退学・休学することなく隊員として活動することができることに加えて、派遣実績を授業科目「海外フィールドワークⅡ」の単位認定とすることが可能な体制とした。また、1か月程度の短期ボランティアに2名の大学院生を派遣し、授業科目「海外フィールドワークⅠ」として単位取得が可能な体制としている。
- 平成30年度4月入学者から、帯広畜産大学の大学院博士前期課程修了見込みの大学院生または共同獣医学課程卒業見込みの学部生を対象とし、帯広畜産大学大学院博士後期課程に進学する意欲がある者で、日本学術振興会特別研究員に申請した者、あるいは国費外国人留学生で、進学時に国費期間延長できなかった者に対して、奨学金による支援と授業料の全額免除を実施する制度を新設し、博士課程への進学支援を行った。同支援制度を活用した入学者数は、平成30年度入学者3名、令和元年度入学者2名で、令和2年3月末時点で令和2年度入学予定4名を採用した。
- コーネル大学（米国）及びウィスコンシン大学（米国）から4年間で延べ58名の外国人教員を招聘し、食品科学分野、予防獣医学分野等の特別講義・ワークショップを39回実施し、獣医・農畜産融合の教育研究交流を推進した。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

### 〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

### 〔特色ある点〕

- 平成 28～30 年度の修了生を対象に、入学した時点と比べた能力・知識に関する 5 段階評定のアンケートを実施した結果、「一般的な教養」、「分析力や問題解決能力」、「専門分野や専攻の知識」、「プレゼンテーション能力」については、8 割以上の大学院学生が「大きく増えた」あるいは「増えた」と回答した。そのうち、「専門分野や専攻の知識」は特に割合が高く 97.6%であった。